

## 土木学会四国支部「土木紀行」No. 28(愛媛県)

### ～松山城～

松山城は、松山市の中心部(松山市丸の内)である標高132mの城山(勝山)山頂に本丸があり、裾野に二之丸(二之丸史跡庭園)、三之丸(堀之内)がある、広大な平山城です。別名、勝山城・金亀城と呼ばれ、道後温泉とともに「美しい日本の歴史風土100選」に選ばれています。城山公園全体が「日本の桜名所100選」や「日本の歴史公園100選」に指定される攻守バランスのとれた城となっています。また、日本で12か所しか残っていない、江戸時代以前に建造された天守を有する城郭の一つです。加藤嘉明公が1602年から築城を開始し、わが国の築城史上、最長の歳月(四半世紀)を完成までに要した四国最大の城郭で、「現存12天守」の中では、姫路城と並ぶ連立式の天守を有しています。



松山城公園から見た風景

その天守について調べると、瓦には葵の御紋が付されており、全高は本壇から20m、標高は約161m、頂上の高さは姫路城の約三

倍の高さだそうです。この天守は昭和10年5月13日に重要文化財(建造物)として指定されています。



天守



登り石垣

松山城の見所では、「登り石垣」というものがあり、場所は愛媛県庁裏登城道から入るところにあります。この登り石垣の役割として山腹から侵入しようとする敵を阻止することが目的となっており、ミニ万里の長城のような造りとなっています。南側の部分はほぼ完璧な形で残っていますが、北側は一部分しか残っていないようです。幕末以降に何らかの理由で、取り壊されたものと考えられています。造りは、「切り込みはぎ」というもので、排水機構が設けてあり、石垣の刻印があります。また、14mをも超える石垣があります。

松山城を調べて思ったことは、防衛のために全国的にも珍しい形の石垣を採用した攻守のバランスの取れたつくりになっていたことに驚いたことでした。

参考文献)松山市ホームページ

[http://www.city.matsuyama.ehime.jp/matsuyamajo/1177426\\_1025.html](http://www.city.matsuyama.ehime.jp/matsuyamajo/1177426_1025.html)